第 35 号
2013.10月

かざぐるま

発行　城里町社会福祉協議会　☎029-288-7013　FAX 029-288-7021　ホームページ http://www.shirosato-syakyo.com
編集　広報ボランティアグループ

中学生 ボランティアスクール

８月５日（月）から７日（水）の３日間、中学１年生を対象としてボランティアスクールが行われました。

曹洞宗高雲寺（つくばみらい市）の米沢智秀副住職の講話、続いて避難所の運営の方法を学ぶ避難所ＨＵＧ体験、救急救命講座、施設体験など盛りだくさんの内容でした。参加者の今後のボランティア活動や社会活動に期待します。

祝 おめでとうございます

城里町敬老会・金婚式式典

残暑厳しい9月1日(日)城里町敬老会・金婚式の式典が、コミュニティセンター城里のホールで、午前9時30分より盛大に開催されました。

現在町では75歳以上の方が3,523名、めでたく金婚式を迎えられた方は12組おられます。また今年100歳を達成された方は10名いらっしゃいます。これらの方々をご招待して、祝賀の式典が行われました。

石川さんご夫妻に記念品贈呈

阿久津高ク連会長の謝辞

始めに阿久津藤男町長より「皆さま方が激動の時代の中、地域貢献に尽くされてこられたことに敬意と感謝を申し上げます。国民の4人に1人が高齢者であるというなか、わが町でも29.7％の高齢化率になってきました。『人と自然が響きあい、ともに輝く住みよいまち』の実現をめざし、高齢者福祉施策の一層の充実を図ってまいります」との挨拶がありました。

参加者のみなさん

つづいて金婚者記念品贈呈に移り、代表して石川丈幸・ミキご夫妻が、花束および記念品を阿久津町長より受けられました。

来賓祝辞、来賓紹介のあと、金婚者・招待者謝辞が城里町高年者クラブ連合会会長の阿久津尚一さんから「町をあげて、この様に盛大に挙行されたことに感謝致します。高齢者は城里町に住むことを誇りとしています。これからも、高齢者対策に尽力されますことを望みます」とありました。

式典閉式のあと、休憩をはさんでアトラクションが行われました。

始めに笠間市の津軽三味線工藤流の2名による「津軽じょんがら節」、和太鼓1名も加わって「津軽たんと節」が演奏されました。最後の「秋田甚句」では、更に小学生3名の和太鼓も加わり、力強い音色が場内に響きわたりました。

津軽三味線と和太鼓

つづいて七会の下赤沢民俗芸能保存会による「八木節源太踊り」が披露されました。カネや太鼓、笛と音頭に合わせ、6名の方が黄色いはち巻きにオレンジ色の揃いの法被(はっぴ)姿で、舞台せましと勢いよく踊って下さいました。

参加者からは「踊りを見て元気をもらった」との声が聞かれました。

八木節　源太踊り

金婚者11組の方々を次ページでご紹介します。

恩蔵 良夫・幸子 夫妻（常北・上古内）

結婚50年、金婚式を迎えることができうれしく思います。地域の皆様方や家族に支えられありがとう。余生を楽しく送りたいと思っています。

柳橋 孝一・とき 夫妻（常北・石塚）

夫婦二人で、二人三脚で歩んで50年。これ一重に弟妹、地域の皆様のお陰と深謝します。余生は、二人楽しく過ごしたく思います。

阿久津 勇己・紀美子 夫妻（常北・石塚）

多くの友人知人に助けられ、積年の波乱も夫婦で乗り越えて今日のよき日を迎えられ感無量です。夫婦共通の趣味を持ち、どこへ行くのも一緒です。これからは微力ですが何かの役にたつようなことをしたいと思います。

石川 丈幸・ミキ 夫妻（常北・那珂西）

家族や地域の皆様に支えられ、金婚式を迎えられた事に感謝しております。「意気軒昂」老い先元気に生活出来たら最高です。

久貝 忠利・冨久子 夫妻（常北・上入野）

結婚50年、お互いに助け合い、手を取り合って努力してきた二人。これから先は、お世話になった地域の皆様と楽しく過ごして行きたいです。

浅野 洋一・きみ江 夫妻（常北・石塚）

この度、金婚式を迎えることが出来たこと、近隣の皆様、家族に感謝申し上げます。今後は二人とも健康に留意し、歩んで行きたいと思います。

冨永 美知男・まさ子 夫妻（常北・下古内）

金婚式を共に元気で迎えることができ感謝しています。これからも残された人生を元気で楽しく過ごしたいと思います。

萩谷 一男・禮子 夫妻（常北・石塚）

家族や周りの人々に支えられた50年。感謝、感謝“ありがとう”につきます。共に健康に留意して次のステップへスタートしたいです。

加藤木 正巳・りう 夫妻（桂・北方）

結婚50年、色々な事がありましたが、家族や地域の皆様に支えられて金婚式を迎えられ感謝しています。これからは健康第一で夫婦で楽しみながら過ごしたいと思います。

大越 功・正子 夫妻（桂・上圷）

やっとここまで辿り着いたという実感です。これも地域の皆様の支援と感謝申し上げます。今後は御恩のお返しとベストを尽くします。

西尾 一三・すが 夫妻（桂・上阿野沢）

結婚して半世紀50年の道のりを夫婦で歩み、元気で金婚式を迎え感激です。残りの人生も助け合い穏やかな日々を過ごしたいと思います。

きらっと生きる 超絶!!アコーディオン

大越　豊典（とよのり）さん（上入野）

皆さんはアコーディオンという楽器をご存知ですか。

アコーディオンは右手側に主に主旋律を奏でるピアノ同様の鍵盤が並び（ボタン式も有り）、左手側に主にベース音や和音を奏でるボタンが並んでいて、中央の蛇腹を左右に広げたり、縮めたりしながら、鍵盤やボタンを動かし演奏する楽器です。

重さはアコーディオンの種類によって様々ですが、現在使っている物は12kg有り、これを自由自在に操り、すばらしい調べを奏でているのが、大越豊典さんです。

大越　豊典さん

「アコーディオンは歌い手さんの歌が主役なので、それに合わせて演奏しています」と言う大越さんは、うぐいすの会（代表　仲山正子さん）で、伴奏を担当していて、月に3・4回ボランティアとして、うぐいすの会の皆さんと共に老人ホーム等へ行き、音楽を届けています。

アコーディオンの他にもギターやアルトサックス、キーボードが加わり、演奏は本格的です。懐メロが中心で、皆が知っている曲は皆で歌ったりと、とても喜ばれています。ボランティアは城里町の他に水戸市や茨城町などにも出掛け、うぐいすの会の方の歌を盛り上げています。

このボランティアの他にも大越さんは、カラオケ教室の先生もしておられます。

「音楽は昭和20年東京に行き、働きながら学びました。27歳まで音楽をやっていましたが、帰郷を機にやめました。二十数年音楽をやめていましたが町から依頼され、再びアコーディオンを始めました」と言う大越さんの演奏は、ブランクを感じさせない、すばらしい調べでした。

アコーディオン

大越さんとうぐいすの会のみなさん

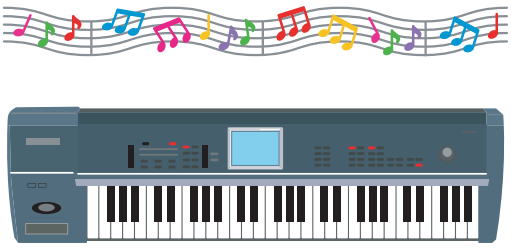
大越さんは音楽の他にも農業や菊花を育てたり、ラジコン飛行機を作って飛ばしたりと多様の趣味を持ちあちこちで活躍しています。

つくしの四季 ㉘

8月31日(土)に水戸市にあるあけぼの学園の夏祭りで演奏をしてきました。きっかけは、6月に開かれた花しょうぶ祭りでのつくしんぼ音楽隊の様子が茨城新聞に載り、その記事を見た知人があけぼの学園長につなげてくれたからです。あけぼの学園には、自分と同じ学校の卒業生が通所していて知り会いも何人かいます。

当日はメンバー7人で参加しました。学生だった時の先生も何人か来られていて、小さい子供から大人まで幅広い年齢層でとてもにぎやかでした。演奏では、職員の方と一緒に歌を口ずさんだり、手拍子をしたり、楽しんでくれていたようでした。

最後にじゃんけん大会があり、僕達も参加してきました。障がい者施設での祭りは久しぶりで、懐かしく感じました。今年は今までより演奏する機会が多かった気がします。これからも町内だけでなく、色々な所で演奏していけたらいいと思います。今後の予定は、12月7日(土)県民文化センターでの演奏です。ずっとやりたかったステージなので、ぜひ時間の有る方は聞きに来て下さい。



東北へ行ってみよう

8月28日(水)城里町ボランティア連絡協議会主催による「東北応援ツアー」が計画されました。朝早い出発でしたが、バス2台、76名の参加がありました。この企画は少しでも東北の復興のお手伝いをしようということで去年から行われ、今年で2年目となります。2年続けて参加された人達も多く、この1年で被災地がどのように復興したか見てみたいとの気持ちがあったようです。

途中休憩をとりながら、宮城県に入り、高速道路から左右を眺めてみると去年と違い、田植えが出来なかった海側も金色の稲穂がたわわに実っていました。

語り部の話を熱心に聞くボランティアの皆さん

みやげ物店を兼ねた食事処で昼食を取り、皆早々に買い物をするため下へ降りて行きました。早速手にとって眺めては買い物かごに入れたり、小脇に抱えたりして沢山の買い物をしていました。土産を買ったあとは、実際に津波の恐ろしさを身を持って体験されたという語り部の話を聞く機会を得ました。語り部の話は、臨場感があり迫力もすごく、聞いていて思わず身震いしてしまったほどでした。

そのあと、語り部ともう一人の案内人がそれぞれのバスに乗り、災害の跡地を見て廻りました。去年と大きく違ったと感じたのは、ゴミ、廃棄物の山がほとんど撤去されたこと、結構にぎやかになっていること、反対にほとんど変わらないのは、一般の人達が住んでいる所の復興であると思いました。少しでも早く元通りの街に戻ることを願いつつ帰路につきました。

与三郎庵 チャリティー＆バザー つくしも参加

8月27日(火)水戸市木葉下(あぼっけ)町にある与三郎庵で、チャリティー＆バザーが開かれました。毎年好評で、今回も開店と同時に多くの方が来店され、お目当ての品物を先に買ってから他のお店を見ていました。

バザーの売上金は、城里町と水戸市の社会福祉協議会へ寄付されます。城里町地域活動支援センター(つくし)も、福祉の店つくしとして、野菜と手芸品等の自主製品を販売しました。その他に、もりそば・もちつき・かき氷・生ジュース等が有り、お客様の中には「毎年楽しみにしている」と話をされている方もおり、地域の人々に喜ばれている様子が、伝わって来ました。

みとちゃんといっしょに

水戸市のマスコットキャラクター「みとちゃん」が、会場に姿を見せると、買い物をしている人達が次々と写真を撮っていました。つくしの人達もみとちゃんと一緒に記念写真を撮り、「とても可愛い」と笑顔を見せて喜んでいました。

日射しも強く暑い一日でしたが、接客をしている通所者の姿は、一生懸命で楽しそうでした。

しろさと⑱ ふれあいの里 天文台(てんもんだい)

秋の夜長の今夜は、テレビを消して夜空に輝く星を眺めに出かけませんか？

「ふれあいの里」の敷地内に『ふれあいの里天文台』があります。星空のビデオ上映や天文同好会会員による星空解説のほか、本格的な400ミリ天体望遠鏡で天体観察が楽しめます。

また、11月16日(土)には「ふれあいの里 星空観望会」が行われます。(雨天中止) キャンプファイヤー・けんちん汁などの無料サービス・お楽しみ抽選会なども催されます。

なお、開館及び行事の詳細については管理事務局までお問い合わせください。

住所　城里町上入野4352
電話　029-288-5505
HP　http://fureai.shirosatocamp.jp/

連続して最優秀賞になった 錫高野の花壇

錫高野の花壇が城里町花いっぱい運動コンクールで昨年に引き続き今年も最優秀賞に選ばれました。花壇は、三枝祇（さしぎ）神社下交差点にあり、幅5m、長さ15mと7mの二つです。サルビア、マリーゴールド、鶏頭（けいとう）などが整然と咲いています。以前、この場所は放置されていた県有地で草だらけだったそうです。

種から花を育てる

錫高野では花を種から育てています。これは十数年前、横倉ちよ子さんが個人的に行っていた苗作りを、高年者クラブが引き継いだのが始まりです。以来、クラブでは、桂小の花壇の他に、地域内に5ヶ所のサルビア花壇を作って道行く人々を楽しませています。苗床で育てた苗の仮植、苗植え、草取りなどの作業は全員が行い、作業後の懇親が楽しいと参加者は言います。しかし適宜必要な水遣りだけは2、3人の会員に頼らざるを得ないそうです。

綺麗な花を咲かせるために

サルビアだけで五千本。これを畑に仮植し、同じ大きさに育つよう水遣りや追肥に気を配っての作業は大変です。また、花壇に移植してからの草取りは、花の根を傷つけないよう注意を払い、花が満遍なく咲くように最初の花は摘花。秋には花の種を採取し、次年に備えるとのことです。

当初は仲間作りの手段だった

錫高野にとって、花壇作りは、会員同士の絆を深める役割を果たしています。前会長の横倉芳郎さんは、「女性を含めた会員全部が参加出来る事業として花作りを始めた」と十数年前、花作りを始めた動機を語ります。

＊現在、花壇作りはみどりネット錫高野が主体となり、錫高野生産者クラブが行なっていますが全員が錫高野いきいきクラブ会員です。

色あざやかに作られた花壇

介護予防講演会のお知らせ

10月27日(日)12時30分より、コミュニティセンター城里において、介護予防講演会を開催いたします。

基調講演では、栗田病院副院長の安部秀三先生をお招きし、認知症についての講演があります。認知症を良く知り、認知症の方やその家族が安心して暮らすことができる地域づくりをしていきましょう。

また、アトラクションでは、上圷在住のナカタ音楽教室講師の仲田文江さんに昔懐かしい曲を演奏していただきます。

そしてその後には、介護予防劇場を行います。これはボランティアの皆さんによる楽しい寸劇です。

大切な人が認知症になっても、家族や地域の方の支援があれば、今までどおりの生活が可能です。それには、認知症を理解することが最も大切になります。

ぜひお誘い合わせの上、お越し下さい。

基調講演
認知症を理解しよう
講師…安部秀三氏
（栗田病院副院長）

アトラクション
なつかしいあの曲を聴いてみましょう
エレクトーン奏者…
仲田文江さん
（ナカタ音楽教室）

介護予防劇場
じぇじぇじぇ！おばあちゃんが大変だ！

【お問い合わせ】
城里町社会福祉協議会
☎029-288-7013

昨年の介護予防劇場の様子

昔話の世界へ

七会にある社協介護保険事業所では、現在竜宮城と笠地蔵のペーパークラフトを作成しています。一昨年から作成をはじめ、今回は三作品目です。作られた作品は、11月に行われる公民館祭りに出展されます。

作成には、デイサービスの利用者さんが関わり、その作業は、色のついた紙をそれぞれの大きさにちぎって下地に糊づけをするものです。これは、横1.8m高さ0.8m奥行き0.4mほどの段ボールの箱の中に作った竜宮城と笠地蔵の背景に使われます。

基本的なものは介護職員が行い、その他は利用者とボランティアの方々との作業で作り上げるとのこと。皆さん公民館祭りに向け、楽しそうに手を動かしていました。出来上がりが楽しみです。

手話を学ぶ ⑦ 秋

暑かった夏も過ぎ、さわやかな季節となりました。今回は「秋」にちなんだ手話をやってみましょう。

「秋」

これは涼しい風が顔にあたる様子を表しています。

前方から顔に風を送るような感じで、両手を数回手前に動かします。（涼しいも同じ手話です）

「食欲」

これは食べたい「食べる」と「～したい」という2つの手話で表現します。

①食べる

左手を食器・右手を箸に見立て、ご飯を食べる様子を表しています。左手の上で、右手の人差し指と中指を口に2回すくい上げます。（ご飯・食事も同じ手話です）

②～したい

右手の親指と人差し指を伸ばしてのどにあて、指を閉じて下げます。（好き・欲しいも同じ手話です）

「読書」

これは、本を読む「本」と「読む」という2つの手話で表現します。

①本

本を開く様子を表しています。両手の手のひらを合わせ、左右に開きます。（メニューも同じ手話で）2回開くと、雑誌・ノートになります。

②読む

2本の指は目線を意味し、本の文字を目で追う様子を表しています。右手の人差し指と中指を左手のひらの上で上下させます。

「芸術」

これは東京芸術大学の学帽の記章を表しています。

右手の人差し指と中指をひたいにあて、下げます。

「祭り」

みこしをかつぐ様子を表しています。

両手で棒をかつぐしぐさをします。（すぐに使える手話辞典6000より引用）

社協の仕事⑤

ふれあい訪問事業

社協では、70歳以上で一人暮らしの方を対象に、安否確認を目的としたふれあい訪問事業を実施しております。

この事業は、常北・桂・七会地区のふれあい訪問に関わるボランティアさんの協力を得て行っており、各地区で毎月1回、利用者のお宅に訪問し、話し相手等をしながら利用者の安否確認を行います。月に1度の訪問を心待ちにされている方も多く利用者に大変喜ばれています。

この事業は、町民の皆さまからのあたたかい寄付による「善意銀行」を財源として実施しております。

利用希望の場合は、各地区担当の民生委員又は本会へお気軽にお問い合わせ下さい。

ふれあいサロン

高齢者の介護予防をはじめ、閉じこもりの防止、社会参加を通して楽しさや生きがい、人と地域をつなぐ拠点として「ふれあいサロン」を開催しています。

町内に43ケ所の自主サロンがあり、シルバーリハビリ体操指導士による体操をして健康づくりをしています。時には、お昼に会食をして楽しい時間を過ごしています。サロン参加者からは、「サロンに来るようになってから足が痛くなくなったよ」などの声もあり、体操の成果がみられています。さらに年に一度の巡回サロンでは、特別講話や血圧測定も実施しております。

ふれあいサロンは65歳以上の方なら誰でも参加できます。お住まいの地区の公民館や集落センターで開催されていますので興味のある方は社協にご連絡ください。ふれあいサロンに参加して、楽しく元気な毎日を送りましょう。

城里町社会福祉協議会
☎029-288-7013

わが町のさわやか元気さん ㉛

岩下　金司 さん　89歳　徳　蔵

金司さんは、県立水戸農業高等学校の校長職を最後に、25年の教職を昭和60年3月に退きました。

その2年後、旧七会村の村長に当選し、村長として3期12年の間に、教育環境の改善、「さくらトンネル」建設など地域の繁栄と発展に貢献されました。

平成6年には教育者としての功績が讃えられ勲四等瑞宝章を受章されました。

現在は金司さんご夫妻と息子さんの家族と7人で暮らしています。趣味も俳句、囲碁、カラオケと多才です。特に俳句は新聞に80句も掲載された実績があります。

俳句を始めた原点は、高校入試の時の「秋あかね筑波に雲もなかりけり」の一句にあるとのこと。米寿を迎えた金司さん「米寿なりわが誕生日終戦日」と詠まれました。ご健康に留意され、奥様と共に幸せな人生を送って下さい。

保坂　藤吾 さん　87歳　徳　蔵

深い山あいの道が続く高台の地に、藤吾さんのお住まいが有ります。

1人暮らしですが、笠間市に嫁がれた次女の道子さんが訪れてすべての家事を済ませています。「うるさい娘だ」と言いながらも満足そうな表情をされていました。

日常生活は健康そのものです。若いころから日本酒が大好きな藤吾さんでしたが、今は控えめとなり晩酌は焼酎に変えたそうです。

趣味は読書と囲碁です。

17歳の時に海軍に志願兵として入隊、衛生兵として従事し、シンガポールで終戦を迎えたそうです。

その後60代で旧七会村村会議員に当選し、合併後は城里町町会議員となり、16年間の議員活動をしました。

18年前に亡くなられた奥様の支えが大きかったと話されました。忍耐と努力が藤吾さんの人生。その気構え、心構えで元気にお過ごし下さい。

共同募金

社会福祉協議会会費の納入をいただき、ありがとうございました。皆様の会費をもとに地域福祉事業を推進してまいります。

また、10月1日より赤い羽根共同募金運動が始まりました。ご協力をお願いいたします。

歳末たすけあい見舞金給付事業の申請について

歳末たすけあい募金に寄せられた住民の皆様の寄付金を財源として、支援を必要とする方々に「歳末たすけあい見舞金」を給付しております。給付に関しましては、対象世帯が定められており、条件を満たす方への給付となります。

対象世帯、提出書類等の詳細については、城里町社会福祉協議会、お近くの民生委員までご連絡下さい。

城里町社会福祉協議会
☎029-288-7013

目次

- 中学生ボランティアスクール……1
- 城里町敬老会・金婚式式典……2・3
- きらっと生きる……4
- つくしの四季㉘……5
- 東北へ行こう……6
- 与三郎庵チャリティ＆バザー
- しろさと⑱
- 連続して最優秀賞になった錫高野の花壇
- 介護予防講演会のお知らせ
- 昔話の世界へ
- 手話を学ぶ7……7
- 社協の仕事⑤
- わが町のさわやか元気さん……8
- 共同募金・歳末たすけあい見舞金
- 目次・編集後記

編集後記

にぎやかで黄金色だった田が1枚、また1枚と消えていき、今は切り株だけが残った。入れ替えるように今度は果物が実をつけてきた。田を渡ってくる風も南から北へ。空気も心なしかおいしく感じる。雑草の茂みから虫の音も響いてくる。

秋だ、秋がやってきた。自然は間違いなく我々に秋を運んできてくれる。でも秋は短い。その短い秋のいぶきを感じられるのはすごく幸せなこと、そう想わないかい？

（わ）